
Ⅲ 事務局

事務局は、事務局長のもとに射水キャンパスには経営企画課と教務課が、富山キャンパス事務部には管理課と教務学生課が置かれている。事務局の組織と人員の推移をそれぞれ資料4.8と資料4.9に示す。

Ⅳ 中期計画

公立大学法人化を機に第1期中期計画が2015年（平成27）4月1日から2021年（令和3）3月31日までの6年間で策定された。3つの目標として、①学生を大きく伸ばす教育力の高い大学、②未来を志向した高度な研究を推進する大学、③広く開かれ地域に貢献する大学の実現を目指すこととし、取り組んでいる。

Ⅴ 財政

2010年（平成22）以降、本学の運営に要した経費の決算額の推移を資料4.10に示す。

Ⅵ 施設の整備と管理

附属施設およびキャンパス環境の整備と、学内の危険物対策などの管理について述べる。

1. 附属図書館

(1) 概要

附属図書館は、大学創設の1990年（平成2）4月に全学の図書館として設置され、その基本理念を、利用者に知識の総合的な習得の場を与えることとし、あわせて個々の情報を迅速に提供することを目的としている。

「地域に開かれた大学」としての役割を果たすために、1991年（平成3）4月に「学外者利用取扱要領」を定め、一般県民も利用ができるようにしている。利用できる学外者の範囲は、富山県内に居住する者、富山県内の事業所に勤務する者などである。

2019年（平成31）4月に新設された富山キャンパスにも図書館が配置され、射水キャンパスの図書館を射水館、富山キャンパスの図書館を富山館として、それぞれ運営を行っている。

(2) 射水館

射水キャンパスに位置する射水館の延べ面積は2,362㎡で、扇形の建物（2階建）である。2階に入口があり、1階に降りる中央らせん階段に沿って棚田状に、中2階上・中・下3

床の閲覧席が配置され、独特な構造になっている。1階の窓際に設けてある閲覧席も含めて、全閲覧座席数は223である。この他に、個人で利用できる個室が4室、6人用部屋も1室設けてあり、さらに、ゼミナールやサークル活動などの学習・討論・研究の目的で利用するグループ閲覧室（12席）があり、間仕切りにより2グループの利用も可能になっている。また、蔵書検索用のパソコン（5台）、プリンター（1台）などの機器も備えている。

館内は全開架方式を採用し、図書・雑誌は自由に閲覧できるようになっている。さらに、2019年（平成31）4月には図書館用システムを刷新し、図書の貸出・返却・予約・検索の迅速化及び事務の簡素化を図っている。

開館時間は、月～金曜日は2017年度（平成29）から30分早め、午前8時半～午後7時（夏期・冬期休業期間中は、午後5時まで、試験期間中は午後8時まで）、土曜日は、2017年度（平成29）から午後1時～午後4時である。ただし、教職員と大学院博士課程の学生は時間外出入口からの終日利用が可能になっている。また、図書館入口前ロビーに、学生のための学習コーナー（104席）が設けてあり、閉館後も利用できるようになっている。

(3) 富山館

富山館は富山キャンパス図書館棟の2階と3階に設置されており、全1,015㎡の床面積を持っている。2階にはインフォメーションやDVDプレーヤーを備えたAV視聴コーナーのほか、富山県立大学の学生がグループ学習や自主学習等に使用することができる「アクティブラーニングルーム」や「アクティブラーニングスペース」がある。「アクティブラーニングルーム」は2室、それぞれ6人用と8人用の部屋に分けることができ、ゼミナールやグループ学習など自由に利用することが出来るようになっている。3階には開架式の書架と、テーブルと椅子が置かれた閲覧席があり、図書館には看護学の専門書を中心に現在約1万4千冊の蔵書が揃っている。

開館時間は月～金曜日は午前8時半～午後7時（夏期・冬期休業期間中は、午後6時まで、試験期間中は午後8時まで）、土曜日は午前9時～午後4時まで利用が可能になっている。

(4) 運営

附属図書館は、主に教員・学生に対して研究・教育・教養のための資料と勉学の間を提供する役割を担っている。図書館の運営方針は、館長を中心に各学科から選出された委員で構成される図書館運営委員会によって審議される。図書館業務は、2019年（令和元）11月現在、館長1名（兼務）、富山館長1名（兼務）、委託司書9名、事務職員4名（兼務）が担当している。

2017年（平成29）4月から2年間、本学は、公立大学協会図書館協議会の東海・北陸地区協議会代表館を務め、各年度において地区会議を主催した。

本学図書館では、調査・研究図書館機能だけでなく、読書のすすめコーナーの充実や、ベストリーダー賞の表彰等により、学生の読書活動の推進にも力を入れている。

また、外国雑誌については、本学では2007年（平成19）から電子ジャーナルの導入をし、これ以降、電子ジャーナルでの購入が急増している。また、近年の外国雑誌の価格高騰への対策として、大学図書館コンソーシアムへの加入、パッケージでの購入を行うなど、タイトル数の維持に努めている。

蔵書数の推移を表4.3に示す。

表4.3 蔵書数

2020年3月末調査↓

区分（年度末）		創設時	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
図書冊数	和	53,253	122,528	122,596	122,309	119,841	120,750	122,180	123,273	123,812	124,404	135,208
	洋	14,347	44,708	45,043	45,312	45,561	45,873	46,036	46,220	46,323	46,433	36,681
雑誌の種類 （冊子体）	和	184	2,488	2,491	2,482	2,332	2,323	2,230	2,193	2,229	1,814	1,604
	洋	145	1,261	1,311	1,324	1,323	1,326	1,324	1,329	1,343	1,159	780
雑誌の種類 （電子ジャーナル）	和	0	3	435	448	468	570	581	593	27	23	48
	洋	0	3,424	2,191	1,965	1,967	2,343	1,863	1,882	1,879	1,905	3,316

2. 計算機センター、情報システム

計算機センターでは、情報教育等に利用するための全学共同利用サーバ計算機や実習用UNIXワークステーション・パソコン、学内ネットワーク及びそれを經由してのインターネット利用環境の時代に即応した整備を進めるとともに、各種情報セキュリティ対策を推進してきている。

プログラミングやCAD等技術処理の教育を実施するための実習環境としては、射水キャンパスに2011年度（平成23）より、Windows/Linux共用型パソコン120台体制としており、2016年度（平成28）には、合計162台体制へと、看護学部開設に伴い富山キャンパスに2019年度（令和元）情報処理室を置き、65台のWindowsパソコンを設置し学習環境の充実を図った。

また、それらを支援する計算サーバ群の構成を見直し、最適化も進めた。ネットワーク利用環境では、2017年度（平成29）に、学内ネットワークを再構築し、10～20Gbps基幹網と1Gbpsイーサネット支線へと増強することで、各講義室・研究室からのサーバやインターネット利用の利便性を高めた。情報セキュリティ対策としては、2010年度（平成22）に、学内ネットワークの利用にはMAC認証及びWeb認証を行うよう認証システムを導入した。さらに2011年4月（平成23）には、学内情報資産のセキュリティを確保するため「富山県立大学情報セキュリティ実施手順」を施行し、2016年（平成28）4月に「公立大学法人富山県立大学情報セキュリティポリシー」及び「富山県立大学情報セキュリティ対策基準」を新たに策定し、施行した。

学生必携ノートパソコンは、2016年（平成28）以降の学部・学科の新設等による定員の増加に伴い、台数が増加した。その新しい情報環境に対応するため、2017年度（平成29）には学内ネットワークの主要部分を10Gbpsイーサネットワークに増強し、さらに無線LANの増設も行い、利用環境を整備した。また、富山キャンパスでも教育棟に無線LANを整備し、学生の利用環境を整備した。メールシステムは、2017年（平成29）12月よりMicrosoft社Office365のクラウドメールへの移行を始め、2018年（平成30）2月には完全に移行した。また、2019年（平成31）4月から2要素認証を導入し、セキュリティの強化を図った。

以上のシステム・ネットワークは、計算機センター所長を中心とする学内各学科選出の

計算機センター運営委員会の審議で決定される運営方針に基づき、計算機センター兼務教員4名とともに、常駐のシステムエンジニアで運用されている。

計算機システムと情報システムの推移を表4.4に示す。

表4.4 計算機システム、情報システム

年度	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
計 算 機 シ ス テ ム	計算サーバ (opteron)	計算サーバ (Xeon E5-2680)	計算サーバ (Xeon Gold 6134)							
	Windows Vista WS室60台 PC室60台	WS室81台 (PC室より移設)	WS室81台 (更新)							
	Linux x27	Linux x15	Linux x11							
	(Windows2003R2) x10 (Windows2003R2 x64) x6 (Windows2008R2) x5 (Windows2008R2) x7 (Windows2012) x7	(Windows2016DC) x13	情報処理室 (富士) 65台							
学 生 用	幹線10Gbps 支線1Gbps	幹線10Gbps 支線1Gbps	幹線10-20Gbps 支線1Gbps							
	無線LAN (2006年より 学内全域化(2箇所))	19台増設 (合同棟、環境工学科棟)	10台増設 (図書館更新、仮設棟等)							
ネ ッ ト ワ ー ク 回 線	SINET (200Mbps専用機)	(300Mbps専用機)	(10Gbps専用機)							
	富士県工業技術センター									
セ キ ュ リ テ ィ	ファイアウォール2重化 (2006年より)	ウイルス対策ソフトの全学配付 (2001年より)	MS社キヤンパスアグリメント契約 (2003年より)	MS社VOYS-ES契約						
	学内ネットワーク利用 (MAC、Web認証導入)	情報セキュリティ実施手順の施行	情報セキュリティポリシーの施行							
	コンテナ化/クラウド	保守業務の外部委託	工学部 UNIX授業							
	学内WWWサービス 学外ホームページ	学外ホームページの 外部委託化								
利 用 促 進	学外ホームページ	学外ホームページ								
	学外ホームページ	学外ホームページ								

3. キャリアセンター

キャリアセンターは、文部科学省の「平成18年度現代的教育ニーズ取組支援プログラム」で、本学の「学生の自立を促す統合的キャリア増進プラン」が、特に優れた取組みとして選定（2006-2008年度の3ヶ年）されたことから、それまでの「就職相談室」を発展、充実させた「キャリア教育の推進母体」として、2007年（平成19）4月に開設された大学附属施設である。2011年（平成23）4月には、学生に対するキャリア形成、就職支援の一層の充実を図るため、新たにキャリア形成や就職・企業等に関する情報を提供し、相談指導を行う施設として、就業力育成支援室（愛称・キャリアカフェ）を整備した。（2020年5月にキャリアセンターに統合）

常に就職率全国トップクラスにある富山県立大学では、キャリアセンターを核として、地域との連携・協働により学生に自立心形成や職業理解を促す総合的な「キャリア教育」の推進を目指している。

キャリアセンターは、学生の大学生活と卒業後の人生をより充実したものにして、社会のニーズに応じた人材を送り出すことを目的に、ライフキャリア形成を支援し、入学から卒業までの一貫したサポート体制を構築している。

(1) キャリアセンターの目的

本学の理念に沿って、実践的かつ体系的なキャリア形成のための教育・支援を行い、学生の高い職業意識・能力の育成に資することを目的とする。

(2) キャリアセンター組織

キャリアセンターは、センター業務を掌理する所長（学長が選考した本学教授）以下11名（学長が任命した教員、就職指導担当参与、キャリアアドバイザー、産学官・教育連携コーディネーター）の職員で構成される。（2020年3月末時点）

また、キャリアセンターの運営に関する重要事項を審議するため、センター運営委員会を置いている。（運営委員会の委員は、センター所長、学科毎に選出された委員、学生部長、事務局長等で構成される。）

さらに、学科毎に就職指導担当教員を定め、きめ細やかな就職指導を実施している。

(3) キャリアセンターの業務

(1) 学生のキャリア形成のための教育

- ① キャリア形成論（入学時から3年間にまたがり、学年に応じた計画的なキャリア形成支援を行う必修科目である。）
- ② トピックゼミ（2年次に開講する少人数ゼミ、前期と後期にあり、共に卒業必修演習）での企業訪問等の調整

(2) 学生に対する就職・進学およびキャリア支援

- ① 進路ガイダンス
- ② 模擬面接（個人・集団）
- ③ 合同企業研究会

- ④ 企業を知る木曜日（愛称＝シルモク）
 - ⑤ 企業情報提供、個別の就職指導、就職斡旋、面接指導
 - ⑥ SPI試験対策講習
 - ⑦ エントリーシート作成講習会及び個別指導
 - ⑧ 各種就職支援セミナー
 - ⑨ 県内就職定着促進に関する業務
- (3) その他の業務
- ① キャリアカウンセリング（専門の資格「キャリアコンサルタント」を有するキャリアアドバイザーがキャリア形成に関するさまざまな相談に対応）
 - ② 求人对応

4. 地域連携センター

地域連携センターの設置および活動に関しては、第6章 地域連携で記す。

5. 生物・医薬品工学研究センター

生物・医薬品工学研究センターは、1992年（平成4）に開設された研究機関であり、博士前期および後期課程の大学院生物工学専攻を有する教育機関としても機能してきた。2006年度（平成18）の生物工学科の発足と同時に、大学の研究施設と試験研究機関の交流・調整機能を兼ね備えたバイオテクノロジーの拠点として改組された。現在の生物・医薬品工学研究センターは、旧生物工学研究センター（1992年－2018年度）と富山県バイオテクノロジーセンター（県試験研究機関、1992年－2005年度廃止）の機能を統合したものである。

生物・医薬品工学研究センターの業務内容は、バイオテクノロジーに関する実用化をめざした基盤研究や応用研究の展開、学際的・横断的課題への取組み、大規模研究プロジェクトや知的クラスターの拠点、優れた人材の確保、創造性豊かな研究者の育成、および産学官の共同研究および研修員の受入・技術指導などである。運用に関する方針は、富山県立大学生物・医薬品工学研究センター規程としてまとめられている。組織は、センター所長、顧問、生物工学科及び医薬品工学科の教授全員、本学の工学部各学科からの1名の教員から成る。

生物・医薬品工学研究センター独自の施設は特に定められておらず、生物工学科および医薬品工学科（生物工学研究センター棟、生物工学科棟および中央棟）の施設機器・備品を利用している。微生物利用、酵素化学、分子生物学、天然物有機化学等の研究施設として優れている。また、2006年度（平成18）の学科発足と同時に新設された生物工学科棟は、動植物の利用、応用生物情報学などの研究施設として整備されている。

現在、生物・医薬品工学研究センターでは、くすりのシリコンバレー TOYAMAなどの大型研究が進行中である。その他、各種学内競争的資金や科学研究費などの学外の競争

的研究資金を獲得し、約10件の研究プロジェクトが登録され、強力に推進されている。いずれのプロジェクトも学内メンバーとして生物工学科または医薬品工学科の教員を加え、一部のプロジェクトは、学外メンバーとして県内外の大学、試験研究機関、あるいは企業等の共同研究者が参加している。これらの研究プロジェクトの研究グループ代表者は、年1回の研究成果報告会で進捗状況を報告している。一方、年1回の学外の著名な研究者による生物・医薬品工学研究センター講演会は、主として学部学生などに対する啓蒙的な講義として機能している。また、国内外で活躍している研究者による生物・医薬品工学研究セミナーを随時行っており、学内のみならず、県内企業、試験研究機関に通知すると共に公開している。

県の試験研究機関の代表者が意見交換を行う試験研究機関長会議が年に数回行われるので、生物・医薬品工学研究センター長が参加しており、県全体の研究計画、機器の共同利用、県への共同提案等について議論している。

6. 危険物等の対策

(1) 危険物対策

本学における危険物の使用量は比較的少なく、消防法で規制されている危険物についても、当初はほとんどが指定数量の5分の1以下であった。その後、液体窒素貯槽設備、危険物貯蔵庫、毒劇物専用保管庫を順次設置した。

① 液体窒素貯槽設備

卒業研究などの開始にともない、液体窒素の使用量が増加したこと、および大量購入により購入価格の大幅な低減がはかれることのために、貯槽設備（容量1.5m³）を設置した（1994年3月）。

② 危険物貯蔵庫

1996年度の大学院生物工学専攻の開設にともない、危険物の数量が指定数量を大きく超過するため、貯蔵庫（鉄筋コンクリート造、平屋建て19m³）を設置した（1996年8月）。また、中央棟整備に伴い新たな危険物保管庫を2020年度に整備する予定。

③ 毒劇物専用保管庫

1998年7月の和歌山毒物カレー事件をきっかけに全国的に毒劇物による事件が発生した。そこで、毒物・劇物の管理をより適正に行うため、やや老朽化していた保管庫に代わる新しい毒劇物専用保管庫を配置した（1999年4月）。

(2) 廃棄物処理

実験・研究で発生する廃棄物については、つぎのように取り扱っている。

① 重金属、酸・アルカリなどの有害物をふくむ廃液は、各実験室・研究室で分別回収し、年1回専門業者に処理を依頼する。

② 実験希釈洗浄排水は、排水処理装置を経て、下水道へ流す。この処理装置は全学に4ヶ所あり、下水道法の水質基準のすべての項目を満たしていることを定期的に確認している。

7. キャンパス環境

(1) 校地および校舎

射水キャンパスは、富山県のほぼ中央、射水市に位置する。歌の森運動公園から南にのびる大学通りをはさみ、西側は校舎等が建ちならぶアカデミックゾーン、東側はグラウンドやテニスコート等からなるスポーツゾーンとなっている。

建物は、1990年度の大学開学時に整備されたものが中心となっているが、2005年度には、新たに、事務局・講義室・会議室等からなる合同棟を、2006年度には、新設の生物工学科の実験室・教員室等からなる生物工学科棟を整備するとともに、2020年4月運用開始に向け講義室・実験室等からなる中央棟の整備及び、環境工学実験棟1の移転新築の整備を進めている。

また、2020年度以降、環境工学科棟ほかを解体し、外構整備を予定している。

各棟は2階を主導線とする渡り廊下で機能的に連結されている。講義棟1階の廊下は、ガラス扉越しに中央広場を望む開放的な構造になっており、学生が休息や談話できるよう長いすが置かれている。

駐車場は十分な広さがあり、学生や教職員は概ね希望どおり駐車券の発行を受けることができる。主な建物の一覧は表4.5に示す。

表4.5 主な建物一覧

区分・構造	面積(m ²)	用途	建築年
A本部棟 (SRC 7 F)	3,489	学長室、学部長室、教授会室、講義室、教員室、会議室等	H02
B附属図書館 (RC 2 F)	2,362	閲覧室、個人閲覧室、AV制作室、書庫等	H02
C実習棟 (SRC 3 F)	1,911	製図室、TSS室、ワークステーション室、実験室等	H02
D教職員共通棟 (RC 2 F)	546	教職員コモン(共用室)、大講義室等	H02
E研究棟 (RC 4 F 一部 SRC)	8,329	地域連携センター、実験室、教員室、会議室等	H02
F講義棟 (SRC 3 F)	3,757	物理、化学、生物各実験室、研究室、LL教室、講義室等	H02
G厚生棟 (RC 2 F)	1,607	医務室、カウンセリング室、食堂、売店、談話室等	H03
H体育館 (RC 2 F)	3,359	アリーナ、トレーニングルーム、健康科学実験室、部室等	H04
I環境工学科実験棟1 (S 1 F)	749	実験室等	R01
J計算機センター (RC 3 F)	2,231	コンピュータ室、ソフトウェア工学研究室等	S59
K生物・医薬品工学研究センター棟 (RC 4 F)	4,657	実験室、研究室、講義室、教員室、会議室等	H04
L合同棟 (SRC 2 F)	2,152	事務室、講義室、実験室、会議室等	H17
M生物工学科棟 (RC 3 F)	3,291	実験室、研究室、温室、教員室等	H18
N中央棟 (RC 9 F)	23,118	教員室、実験室、講義室等	R01
O大谷講堂 (RC 1 F)	1,153	講堂、器具庫等	S39
P学生会館 (W 2 F)	860	学生会室、部室、学生談話室、ホール等	H30
Qパステル工房	706	工作室、講義室等	S37
R環境工学実験棟2 (S 1 F)	902	実験室等	S37
通路・倉庫・設備管理等施設	10,690	通路、倉庫、車庫、その他	
合計	75,949		

※ SRC：鉄骨鉄筋コンクリート造り RC：鉄筋コンクリート造り S：鉄骨造り W：木造

(2) 講義室

講義室は、講義室（収容人員約50人）24室、小講義室（同約100人）15室、中講義室（同約200人）1室、大講義室（同400人）1室、総計42室（4,418㎡）である。各講義室には、空調・AV機器を備えている。主要な講義室（21室）の全ての机から学内LANに接続可能となっている。

また、LL教室（収容人員50名）、計算機センターを設置し、計算機センターには108台のパソコンを備え、学生は授業時間外（21時30分まで）でも自習用に利用できる。

(3) 実験・実習室、教員室

学生実験室のほか、専門教育課程に対応した実験室を設けている。

ワークステーション室には、62台のパソコンが配備してある。

パステル工房には、旋盤、フライス盤等の加工機械、放電加工機、溶接装置、電気溶解炉等が備えてあり、学生の機械製作実習が行われている。

生物工学科棟には、動植物を特殊な条件下で飼育・栽培ができる高機能な動物飼育室や温室を整備したほか、共焦点レーザー顕微解析装置を備えた微細構造解析室、機能性食品工学実験室など最先端のバイオテクノロジーの教育研究に必要な設備を整備している。

教授、准教授、講師の教員室は、個室（24㎡）となっている。

教員室とほとんどの実験・研究室から有線又は無線で学内LANに接続可能にしている。

(4) 体育施設

体育館、トレーニングルーム、グラウンド（サッカー場兼用陸上競技場）、サブグラウンド（野球場）、テニスコートがある。

(5) 福利厚生施設等

富山県立大学生生活協同組合が食堂（315人収容）・売店を設置し、大学が医務室・カウンセリング室・学生談話室を設けている。また、2018年度に学生会館（サークル部室、談話室等）を移転新築するとともに、茶室（課外活動用）を設置している。さらに、駐車場（約850台）を整備し、学生、来学者及び教職員が無料で利用できるようにしている。

(6) 附属施設

附属施設として附属図書館、地域連携センター、キャリアセンター、計算機センター、生物・医薬品工学研究センターを設置している。

(7) バリアフリー化

全棟に車椅子対応のトイレを設置している。校舎内のほか、屋外を含めた校地内の段差部分及び各棟を結ぶ渡り廊下にはスロープを設置している。さらに、本部棟・研究棟・附属図書館・厚生棟・生物工学科棟・生物・医薬品工学研究センター棟・学生会館に車椅子対応のエレベーターを設置して、バリアフリー化を図っている。特に2008年度には、障害者学生の入学に伴いトイレ・ドアの改修工事を行い、最新設備を導入するなどして、対策を強化している。

(8) 富山キャンパス（看護学部）

富山キャンパスは、県庁所在地である富山市の中心部に位置し、看護学部の専門科目の授業を行う。実習先のひとつで最先端医療を提供する富山県立中央病院に隣接し、学修及び実習環境が整っている。

キャンパスの中央部には、周辺の閑静な環境に調和した、学生の交流・活動・休憩スペースとなるキャンパスストリートを整備している。食堂や売店の入るエントランス棟は、窓を大きくとり、明るく開放的で居心地のよいオープンラウンジとなっている。

教育棟には、講義室、実習室等を整備するとともに、各階に学生等が交流を深めることができるラウンジスペースを配置している。講義室は、大講義室及び中講義室、グループに分かれて受講する小講義室など、様々な講義形態に対応できるよう整備している。実習室には最新のシミュレーター等を導入するとともに、少人数によるグループ学修や自己学修などを積極的に行うために必要となる演習室やアクティブラーニングスペース・ルーム等も整備し、主体的に学ぶ環境を整えている。

8. 省エネルギー対策

本学は、2007年度、省エネルギー法（エネルギーの使用の合理化に関する法律）に基づく第二種エネルギー管理工場（原油換算エネルギー使用量：年間1,500kl以上）に指定された。このため、エネルギー管理員の選任（2007年度）、エネルギー使用の削減目標や管理体制等を定めた管理標準の策定（2008年度）、省エネルギー推進委員会の設置（同）など、省エネルギーを積極的に推進している。具体的には、管理標準において「エネルギー消費原単位（※）の年平均1%以上の改善」を目標に掲げ、その達成に向けた対策（冷暖房の運転期間の適正化・温度管理の徹底、不必要な照明の消灯等）を省エネルギー推進委員会で決定し、教職員・学生・テナント・委託業者等に通知し、取組みの徹底を図っている。

2018年度のエネルギー使用量は、電気6,414,840kwh（前年度比△3.1%）、都市ガス169,682m³（前年度比△0.9%）などであり、原油換算エネルギー使用量は1,876kl、エネルギー消費原単位は、次のとおりとなっている。

エネルギー消費原単位（延床面積基準） 0.03357（前年度比5.4%）

※）原油換算エネルギー使用量÷エネルギー使用と密接な関係を持つ値

本学の原単位は、「エネルギー使用量÷延床面積」